

特別講演

話題の新興感染症

柏木征三郎

福岡県赤十字血液センター



1. 新興・再興感染症は今なお発生する

人類は過去 40 年間に多くの新興・再興感染症を経験してきている。

新興感染症とは、WHO によれば“かつて知られていなかった新しく認識された感染症で、局地的、あるいは国際的に公衆衛生上問題となる”感染症とされている。

なぜ新興感染症がおこるかという点、

- 1) インフルエンザウイルス A(H3N2)のように、ブタの体内でヒトおよびトリインフルエンザウイルスが同時に感染し、遺伝子の再集合をする。
- 2) 熱帯雨林の開発などでこれまではヒトとの接触がなかった齧歯類との接触（エボラ出血熱）およびチンパンジーとの接触（HIV 感染）の機会の増加。
- 3) 新しい技術開発のため—HBV, HCV など

以上のような要因がかさなり、新しい病気が発生する。

一方、再興感染症というのは“既知の感染症で、すでに公衆衛生上問題とならない程度にまで患者数が減少していた感染症のうち、再び流行し始め、患者数が増加した感染症”と定義されている。代表的なものは結核である。

現在、最も重要な新興感染症として考えられるのは、トリインフルエンザ A(H5N1)であろう。鳥類のみならずヒトへの感染は、1997 年香港での小流行に続き、2003 年に中国、ベトナムに発生、現在はヨーロッパにまで達し世界的な拡がりをみせている。しかも、その死亡率は約 60%ときわめて高く、この A(H5N1)が新型インフルエンザとして登場してくることが恐れられている。

2. 地球温暖化と感染症

地球温暖化は CO2 濃度と密接に関連し、地球規模での温暖化が進んできている。温暖化が進むと最も危惧されているのは、蚊やダニの生息地域の変化である。

蚊は、マラリア、デング熱・デング出血熱、黄熱病、日本脳炎、西ナイルウイルス熱を媒介する。従来、アフリカでは温度が一定の時には、“蚊のライン”が存在し、ある高度以下では蚊は生息出来なかった。すなわち、蚊は気温が 15.5℃以上になる地域（例えばマラリアを媒介するハマダラ蚊）の

みに生息する。したがって、気温が上昇するとマラリアの流行地が世界的規模で拡大する可能性がある。

一方、ダニもライム病、ロッキー山脈紅斑熱などを媒介するが、気温上昇により生息地域が広がっている。実際に米国やヨーロッパでダニにより媒介される感染症が蔓延している。以上のように、新興・再興感染症はさらに発生し続け、現存する感染症もその地域を拡大する可能性を有するため、対策を考えておく必要がある。